



2018年8月25日発行  
発行所：公益財団法人 骨粗鬆症財団  
発行者：理事長 折茂 肇  
〒103-0024 東京都中央区日本橋大伝馬町2-14  
TEL 03(5640)1841 FAX 03(5640)1840  
ホームページアドレス <http://www.jpof.or.jp/>

### ■「5人に1人。」抽選なら当たる気がする。骨粗鬆症啓発のコピーが宣伝会議賞準グランプリを受賞！

「宣伝会議賞」は、株式会社宣伝会議が主催するコピーライターの登竜門で半世紀以上の歴史を持つ公募型の広告賞です。今回協賛した46団体への全応募総数は約42万点の作品にのぼり、財団の公募したテーマ「骨粗鬆症が自分や身近な人に関わることだと考えてもらえるような広告アイデア」には15,000点が寄せられました。このうち、コピー「5人に1人、抽選なら当たる気がする」が、宣伝会議賞の準グランプリ、「コピーゴールド」を受賞しました。財団では毎年、世界骨粗鬆症デーに向けてポスターやチラシを作成してきました。自分たちで頭をひねりながら、ポスターのコピーを考えてきましたが、自分たちが考える「骨粗鬆症」のイメージが固まっており、毎回同じような表現が続いていました。たまたまこの「宣伝会議賞」という場を知り、いろいろな人の考えや見方で骨粗鬆症について啓発するコピーを作ってみたらどうだろう？と考え、啓発コピーを公募することにしました。公募期間の3ヶ月が過ぎ、財団事務局に届けられた一次審査を通過した154作品を読んで、一般の方々の骨粗鬆症に対する意識の高さを感じました。



コピーゴールド受賞の  
柳井 芳文 氏



協賛企業賞受賞の  
野坂 真哉 氏

準グランプリを受賞した「5人に1人、抽選なら当たる気がする」に引用された「5人に1人」は、50歳以上の男性が骨粗鬆症性骨折を起こす割合を示したものです。女性では3人に1人。骨粗鬆症は女性に多い疾患ですが、このコピーは「骨折」を「抽選」というイベントに見立てて、あえて確率の低い男性にフォーカスした斬新なコピーです。今回の「宣伝会議賞」の選考委員の先生方からも、「この作品は今回グランプリとなったクリエイティブの公募作品の「現金なんてお金の無駄遣いだ」と僅差であり、最後まで残った秀作である。」とか、「この作品は、骨折する可能性というネガティブな統計を、抽選なら当たるというポジティブな統計にうまく置き換えたものである」等々と好評でした。

なお、宣伝会議賞には協賛した側が選考する「協賛企業賞」というものがあります。一次審査を通過した154作品の中から財団理事にコピーを10点ずつ推薦してもらい、票の多く集まった作品から、メッセージの強さが良いと理事長を選んだのが「生涯現役、その思い、骨まで伝わっていますか？」です。

今年度の世界骨粗鬆症デー啓発のポスターは、この準グランプリと協賛企業賞の受賞作品を使ったものにします。



世界骨粗鬆症デー啓発ポスターA



世界骨粗鬆症デー啓発ポスターB

### ■ 患者さんの情報を医療関係者が共有できる「骨粗しょう症連携手帳」と患者向け情報紙「カノープス」が好評です。ご希望の方は、財団ホームページのバナーからお申し込みください、



URL:<http://www.jpof.or.jp/notebook/>



URL:<http://www.jpof.or.jp/canopus/>



#### 骨の強度を調べる骨密度検査

骨密度検査は、骨の「強度」が低下して「骨折」をしやすくなる病気で、骨の「強度」は70%の「骨密度」で決まり、30%が「骨質」によるものとされます。「骨質」を判断する方法はまだ確立していませんが、「骨密度」は正確に測ることが出来ます。そこで、骨密度の診断は骨質の測定結果と、骨がもろくなるという病気の診断だけで骨質を測ることが出来ないという問題点を克服するために、骨質を測る方法が開発されました。骨質は、骨化の過程とその後の変化からなり、その変化は、骨の構造によって異なります。診断は、スポンジ（細胞）のような構造をしており、加齢や閉経によって骨質が低下していきます。骨質は骨質の割合が大きい骨なので、骨粗鬆症になる骨質の



### IOF CNS meetingおよびWCO-IOF-ESCEOへ参加

2018年4月19日～22日の4日間にわたり、国際骨粗鬆症財団と骨粗鬆症・変形性関節症・筋骨格疾患の臨床および経済面のための欧州会議の合同国際会議(WCO-IOF-ESCEO 2018)がクラクフコンベンションセンター(ポーランド)で開催されました。

今回、その会議の前の4月18日、19日に国際骨粗鬆症財団主催で各国の骨粗鬆症の啓発団体の代表が集まる会議(CNS meeting)が開催されました。その会議には28カ国から35の団体、合計56名が参加し、世界骨粗鬆症デー(WOD)をめぐる様々な情報が共有されました。今回のWCOには、ポスター、口演などを合わせて1513題の演題が集まり、3965名が参加したと事務局が発表しています。

今回WCO-IOF-ESCEOへ参加した目的は、IOF事務局から各国で実施しているWODのイベントの様子を紹介し、情報共有したいとの要請に応え、折茂理事長の代理で日本でのWODイベントについて紹介すること、またこの機会を利用してWCOの展示会場でブースを出し、各国のCNSの団体と情報交換することでした。



クラクフコンベンションセンター

### CNS 会議での報告

CNS会議では、昨年ホームページに登録されたWODイベントの数が148件と、前年(2016年)に比べて68%増加したことが報告されました。このWODイベントの開催地が記録された世界地図はWCOの会場入り口に展示されていました。続いてシンガポール・イラン・メキシコ・日本・ジョージア・ヨルダンの6カ国のCNS代表が、WODイベントへの具体的な取り組みについて報告しました。

日本からは折茂理事長の代理で石井事務局長が、まずIOFに参画している団体には、骨粗鬆症財団(JOF)、日本骨粗鬆症学会(JOS)、日本骨代謝学会(JSBMR)の三団体があること、疾患の啓発に注力しているのは1991年に創立された骨粗鬆症財団であることを説明しました。その後、財団が取り組んだWOD2017のキャンペーン・イベントを紹介しました。具体的には、大阪のメインストリートにWODフラッグを4週間掲示したこと、WOD当日には国宝の松本城や大阪の観覧車を青色にライトアップしたこと、WODのために制作した「映画の予告編」スタイルの骨量測定推進の短編動画を上映しました。この動画には、同席したCNS参加者から多くの喝采をいただきました。加えて、日本国内にある10の骨を守る会が骨粗鬆症患者のための啓発活動を行っていることを紹介

ました。

フロアからは、動画をどのような場所で上映したのか?、ブルーライトアップにした理由は、等の質問が寄せられました。前者については、駅に設置されている大型ビジョン3カ所でそれぞれ10日間程上映したのち、YouTubeで公開、希望者には動画を送っているという回答。ライトアップについては、IOF事務局に骨粗鬆症のカラーについて尋ねたが、特に明確な回答が得られなかったため、IOFのベースカラーであり、ライトアップしたときに目立つブルーを選択したと回答しました。本会でIOFの存在が印象づけられたものと考えております。



会場に展示されていたWODイベントマップ



CNS会議での発表する石井事務局長

### CNS ビレッジでのブース展示

CNS ビレッジとは、各国の骨粗鬆症の啓発団体がそれぞれの活動を紹介するためにブース展示を行うエリアのことです。WCOでブースを展示するのは昨年のフローレンスに続いて2回目になります。毎回、展示会場の環境や準備手続きが違うため、戸惑いはあるものの、ポスターを貼ったり用意してきた説明資料を掲示しました。今回は展示会場の端の方にCNS ビレッジのエリアが用意されていたのですが、WCOの参加者が何人も財団のブースに立ち寄ってくれました。

### 今後のCNSの活動

IOFでは、各国の実際の患者さんから生の声を動画にして、骨折の怖さを訴えていくキャンペーン「Give Patient A Voice」を展開しています。実際に骨折した経験のある患者さんに、骨折して困ったことや若い世代に伝えたいことなどについて1分間の動画にまとめたものを募集しています。詳しくは添付のファイル、または以下を参照ください。

Give Patient A Voice キャンペーン;[http://www.jpof.or.jp/p\\_news/2018/08/15/6773/](http://www.jpof.or.jp/p_news/2018/08/15/6773/)



ベラルーシ Woman and Family会のパチカウラ氏と財団 磯谷氏



財団ブースでの日本の状況紹介の様子



## ■ 世界骨粗鬆症デー (World Osteoporosis Day ; WOD) イベント

10月20日は世界骨粗鬆症デーです。骨粗鬆症財団は、下記の通り金沢と松本で骨量測定体験会や記念セレモニーなど、WODイベントを開催いたします。参加は無料です。奮って御参加ください。

### 1. WOD in 金沢 2018

日時:2018年10月20日 15時～

場所:石川県政記念 しいのき迎賓館

住所(石川県金沢市広坂2丁目1番1号、<http://shiinoki-geihinkan.jp/>)

- ① 骨量測定体験会(かかとの骨を超音波で測定します。参加無料・定員100名:当日先着順制) 15時受付開始
- ② 市民公開講座 スペシャルトーク:ストップ・ザ・骨粗鬆症～治る・防げる!(入場無料・定員100名:当日先着順制)17時15分～18時  
対談 折茂 肇(公益財団法人骨粗鬆症財団理事長・国際骨粗鬆症財団理事)  
三浦雅一(北陸大学理事・薬学部教授、金沢骨を守る会代表)
- ③ 世界骨粗鬆症デー2018 セレモニー(骨粗しょう症世界患者憲章:金沢宣言、社会貢献表彰、書道パフォーマンス:森 秀一先生[アトリエ・カズ]) 18時～18時30分
- ④ しいのき迎賓館ブルーライトアップ点灯式(10月20日、21日、日没～22時、於 しいのき迎賓館)

※世界骨粗鬆症デー in 金沢 2018キャンペーンイベント(下記のイベントも開催しております)

- ・ 世界骨粗鬆症デー in 金沢 2018 タペストリー掲示(9月10日～24日、10月15日～21日、於 金沢駅東広場もてなしドーム、10月10日～20日 於 しいのき迎賓館)
- ・ 骨粗鬆症啓発動画の放映(10月8日～21日、於 香林坊大和大型ディスプレイ)

主催:公益財団法人骨粗鬆症財団

共催:金沢骨を守る会

後援:石川県、金沢市、石川県医師会、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、北陸朝日放送

特別協賛:日本イーライリリー株式会社

協賛:旭化成ファーマ株式会社、ユーシービージャパン株式会社



折茂 肇 先生



三浦 雅一 先生



WOD2018へ移動

### 2. 国宝松本城ブルーライトアップ

日時:2018年10月20日 日没～22時

場所:国宝松本城(住所:長野県松本市丸の内4番1号)

※昨年に引き続き、世界骨粗鬆症デーに松本城を青く照らし、骨粗鬆症による骨折が少しでも世界から減少することを祈ります。その他に、松本市内で骨量測定体験会、WODリーフレットの街頭配布などを企画しています。

共催:松本ヘルス・ラボ/公益財団法人骨粗鬆症財団/松本市



昨年の「国宝 松本城」ブルーライトアップ

# 平成30年度 骨粗鬆症財団事業計画 (抜粋)

## 【公益目的事業等】

### (1) 普及・啓発事業

平成30年度事業重点項目

- ① 情報発信機能の充実: ホームページ、SNS、財団ニュース、メディアプログラムなどを活用して骨粗鬆症の話題、財団活動等の情報発信を行う。
- ② 財団資料の見直しと新規企画: 市民、患者、医療従事者などターゲットを明確にした資料を提供する。
- ③ 地域イベントへの参画: 地域骨を守る会や地域イベントへ企画提案し、積極的に支援する。
- ④ 他団体との連携: 新たな組織団体(薬局、自治体、生命保険会社、健康関連団体、学会等)へのルートを開拓するとともに、協力体制を構築する。
- ⑤ 疾患情報の充実化: 財団が取り組むべき調査・研究により、独自性の高い疾患情報を充実させる。

### イ) 骨粗鬆症に関する資料・資料の作成と配布

- ・ 既存の啓発資料は従来通り、原則無料配布
- ・ 『骨粗しょう症連携手帳』を学会や講演会、賛助会員企業等を通して配布すると同時に既に配布した先へアンケートを行い、第2版として改訂

(平成30年度新規作成)

- i) ポスター・リーフレット: 「世界骨粗鬆症デー2018」
- ii) 骨粗鬆症啓発ポスター(世界骨粗鬆症デー以外に周年掲示できるもの)
- iii) ビデオ: 骨粗鬆症の紹介ビデオ
- iv) パンフレット: 「妊娠産後における骨粗鬆症予防の重要性(仮題)」
- v) 薬剤師向け教育資料: かかりつけ薬局、健康サポート薬局支援用教育スライド等

### ロ) ホームページ、You Tube等での広報活動: 疾患のみならず財団を広く知ってもらうための広報活動

- ・ 骨粗鬆症の知識の普及啓発により重点を置いたサイトを目指し、HPのリニューアルを行う。
- ・ HPのアクセス数をアップさせ、バナー広告掲載増を目指す。
- ・ 他サイトとの相互リンクを推進する。

HPについては、特に次のページに重点を置く。

- ・ 『病医院紹介ページ』: 掲載数の増加を図りつつ、他の紹介サイトとの相互リンクにより閲覧者が病医院进行を探索しやすい環境にする。
- ・ 『骨粗鬆症アカデミー』(新規コンテンツ): 賛助会員や、薬剤師・骨粗鬆症マネージャー等を対象に財団の持つスライドやビデオ等のコンテンツを公開する。(薬剤師教育用資料、放射線技師向けDXA解説集の作成等)
- ・ FacebookやTwitterなどのSNSでの情報発信、You Tubeでの動画配信
- ・ 各学会会場においてブースを設置

### ハ) 広報誌等による情報発信

- ・ 『財団ニュース』の発行: 年2回発行(7月、1月)を目安に、財団の活動紹介をPDFで配信する。
- ・ 骨粗鬆症情報紙『カノープス』の発行: 年6回(奇数月20日)に発行、PDF配信。内容は一般向け骨粗鬆症の予防や対策、料理レシピ、体操、川柳など。広報用のチラシ等を活用し、広く読者を増やす。
- ・ 『カノープス』編集委員(敬称略): 石橋英明(委員長)、塚原典子(副委員長)、鈴木敦詞、寺内公一、三浦雅一、宮尾益理子、村木重之
- ・ プレスリリースプラットフォーム(報道関係者の会員制情報交換サイト)の利用: 広くプレスリリースを報道関係者にアピールするため、報道関係者に向けた情報を適宜公開
- ・ 『Osteoporosis Japan PLUS』(ライフサイエンス出版)の編集協力(編集委員会参加、監修など)

### ニ) 世界骨粗鬆症デー(WOD)キャンペーン

- ・ イベントや広報に利用できるような財団オリジナルのキャラクターやグッズなどのデザイン開発
- ・ 報道関係者向けセミナーの開催: より多くのマスメディアが参加するよう、随時財団情報の発信に努める。
- ・ WODポスター&リーフレットの作成・配布: 従来の自治体の検診担当者や病医院に加え、骨粗鬆症マネージャー等も配布対象とする。
- ・ WODイベント: 10月20日当日、主に金沢市においてイベントを開催(ポスター掲示・チラシの配布、ライトアップ、キャンペーンバナーの掲示等)の他、自治体やNPO法人等の非営利団体との健康イベントの開催・協力。
- ・ 各地域の骨を守る会との連携イベント開催: 日本骨粗鬆症学会(10月・長崎市)でのブース設置
- ・ WODビデオの掲示: 駅や交通機関など公共空間におけるデジタルサイネージ(電子ディスプレイ)に掲示

### ホ) 骨量測定拡大キャンペーン

- ・ QUSによる骨量測定体験会: 小〜中規模会場での骨量測定会や健康度チェックなどの実施や、他の団体、企業、学校等が実施する骨量測定体験会を支援する(資料の提供等)
- ・ 全国の自治体検診担当者の参考となるよう骨粗鬆症検診成功事例の紹介「骨粗鬆症検診の現状 - 骨粗鬆症性骨折、要介護との関係 - (仮)」(日本骨粗鬆症学会雑誌投稿準備中)の結果を元に、検診率の高い自治体について、骨粗鬆症検診の成功例として取り上げる。

- へ) 地域「骨を守る会」の支援・連携の拡大
  - ・ 地域「骨を守る会」によって実施されている市民啓発活動を支援する
  - ・ 各地域の骨を守る会に対し活動資金を助成
  - ・ 第7回「全国骨を守る会連合会」開催

ト) 東京地区における普及啓発のための組織化: 財団主宰による「東京ほね倶楽部(Tokyo Bone Club)(仮称)」設立の検討

### チ) セミナー・講習会の開催

- ・ 骨量測定法講習会「精度よくDXAで骨量を測るには e-ラーニング」(You Tubeにて公開中)

### リ) 電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

- ・ 雑誌、テレビなどの情報媒体からの取材を積極的に受け、より多くの情報提供に努める。

## (2) 研究助成事業

### イ) 財団研究助成

・ 第27回(平成31年度)(研究期間: 平成31年4月〜翌年3月)

募集課題/件数

【一般課題】5題(60万円) 骨粗鬆症に関する基礎・臨床研究及び調査

【指定課題】最大3題(総額300万円)

① 骨粗鬆症による骨折に関する疫学研究

② 骨粗鬆症検診の普及に関する研究

募集期間: 平成30年11月1日〜12月の最終営業日

### ロ) リー研究助成プログラム(臨床)

・ 第15回リー研究助成プログラム(研究期間: 平成31年1月〜12月)

募集課題/件数 骨粗鬆症に関する臨床研究 10題(80万円)

募集期間: 平成30年7月1日〜8月31日

### ハ) 旭化成研究助成プログラム

・ 第12回旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題)

(研究期間: 平成31年4月〜翌年3月)

募集課題/件数 骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題 8題(50万円)

募集期間: 平成30年9月1日〜10月31日

## (3) 調査・研究事業

\* 調査・研究事業においては、臨床統計の専門家のサポートを受けつつ行う(継続)。

### イ) 骨粗鬆症実態調査

- ・ NDBによる大腿骨近位部骨折の全国の発生状況を論文化
- ・ NDBによる新規の実態調査と新WGメンバーの検討を行う。

### ロ) 「大腿骨近位部骨折全国調査」(継続)

・ 大腿骨近位部骨折の発生率の調査継続(岩手医科大学委託研究)

### ハ) A-TOP研究データの再解析(継続)

- ・ A-TOPで推進してきたJOINT研究に参画した高齢被験者のデータを活用し、骨粗鬆症の病態の多様性の検討と超高齢者での日常診療に資するエビデンスの創出する(2年目)。

## (4) 情報収集&国際交流

### イ) IOF関連: 情報交換と連携の強化を行う

- ・ 折茂理事長 Board Meeting参加(4月18〜22日 クラフ: ポーランド)、11月 Web会議等)
- ・ 事務局 7th Asia-Pacific Osteoporosis Meetingでのブース展示(11月29日〜12月1日 シドニー: オーストラリア)

### ロ) 行政情報収集&ロビー活動

- ・ 健康局 健康課への協力要請
- ・ WODポスター・イベントの後援・検診の推進連携を依頼

### ハ) 健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換

### ニ) 関連団体等との情報交換&連携強化

- ・ 日本骨粗鬆症学会との連携
- ・ 賛助会員の会合: 財団の活動説明を行うとともに普及啓発事業への協力を要請

## 【収益事業等】

### (1) 著作権関連事業

- ・ 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」をはじめ、財団資料・ホームページなど、骨粗鬆症財団が有する著作物を営利目的で使用する場合の譲渡又は提供